



映像アーカイブは時間との戦い



ライブラリーセンターで設立以来活躍してきた 16 ミリテレシネが壊れました。テレシネとはアーカイブズ 5 月号にも書いた通り、フィルムをテレビ画像に置き換える装置です。そのカメラの出力回路が故障しているという事でした。製造元の池上通信機にまだ部品があり、なんとかテレシネは直りましたが、この機械のわかる現役社員はわが社にはおらず、OB の力を頼る事になりました。

放送現場をととの昔に退いたテレシネですが、映像アーカイブの世界では欠く事のできない装備です。センターでも現在デジタル化作業のやり直しを行っており、処理しなければならない 16 ミリフィルムは、長短あわせて 1 万 4000 本を上回っています。これを処理するには少なくとも 4~5 年掛かりますが、その間にまた壊れる事があればもう修理の出来る人は社内にはいないかもしれません。この事情はビデオテープやオーディオテープでも同じで、今センターが持っている再生機材が壊れればもう見ることや聞くことが出

来なくなります。また再生機材だけでなく、フィルムやテープなどの素材そのものもすでにほとんどが耐用年数を遙かに越えており、早くデジタル化しないとデータが消えてなくなったり再生不能になったりします。素材も、その素材の再生機材もいわゆる賞

味期限はとうに過ぎているのです。我々の地道な作業は実は切羽詰った時間との戦いをしているという事です。

著作権 知識

「②ミッキーマウスは不老不死？」

前号では、著作権の寿命がベルヌ条約によって最低 50 年に決められているというお話をしました。その 50 年という寿命に異議を唱えたのがアメリカの映画界、特に政財界に隠然とした影響力を持つディズニープロダクションだったといえます。

ディズニーが世界のヒーロー、ミッキーマウスを世に出したのは 1928 年のことでした。当時アメリカでの著作権の寿命は 56 年ですから、ミッキーの著作権は 1984 年に切れ、あのキャラクターをみんなが自由に使えるようになるはずでした。

しかし生まれて以来何十年も、おもちゃのデザインなどに使われ続けているミッキーは、著作権料という莫大な富をディズニープロダクションに与え続けています。これを失いたくないプロダクションは議会に働きかけ、1976 年に著作権の寿命を 75 年に延長させたというのです。これでミッキーの著作権の寿命は 2003 年まで延長されることになりましたが、その寿命が切れる 6 年前の 1997 年、アメリカ議会はさらにこれを 20 年延長する法律を議決しました。この法律のおかげで、ミッキーの著作権は 2023 年まで保護される事になった訳です。

著作権の期間延長があたかもミッキーマウス延命のために行われたかに見えるため、アメリカではこの「著作権延長法」を「ミッキーマウス法」とも呼ばれています。この法律はアメリカ憲法に違反するとして裁判まで起こされましたが、連邦最高裁は「違反しない」という判決を下しています。最終回は日本への影響です。

ホームページを更新

RSK 放送ライブラリーセンターのホームページを一部更新しました。

センターのホームページには大正から現在まで 4 つの時代の映像を見ることが出来る「アーカイブズ」のページがあります。センターでは今月、この 4 つの時代に一つずつ映像を追加し、全部で 28 の映像をみることができるようになりました。

追加したのは総社服部家から提供を受けた 1930 年頃の高松農業学校の実習風景と 1958 年のラジオ山陽テレビ開局記念パレード、それに 1973 年の第一次オイルショックと 1988 年の岡山ーソウル便就航のニュース映像です。

アーカイブズへの映像追加は、スタッフ多忙のため長い間行われていませんでしたが、今後は出来るだけ頻繁に行って行ければと考えています。